

# はじける ころ

vol.20  
2008年9月号

人権の宝島  
 子どもの放課後・休日の居場所……………1-2  
 豊川南小学校「人間関係づくり」～自分の気持ちを伝える～……3  
 ひがし幼稚園 平和学習……………4  
 エッセイ  
 車イスと、ひとりと、イス かわのひでただ……………5-6  
 天駆けるが如く！はじけるころ20号……………7



げんげの：「げんげ(紫雪草)」とは、れんげ草のことで、「げんげの」は、れんげ草が一面に生い茂る野原のことです。れんげ草は、茎が地に臥して広がり、春になると蓮の花に似た小花を一面に咲かせます。また、れんげ草は、緑肥として大地を肥やします。蓮に似た小さなれんげ草を、子ども一人ひとりの尊厳に見立てて、それが一面に花開く様子をイメージしました。

げ ん げ の の ぺ え じ

●写真募集！●子どもたちの笑顔、真剣な顔、輝く顔…などの写真をお送りください。

みのおから世界へ！ 人権文化の花束を！

平成13年(2001年)に第1号を発行して今回第20号になりました。第20号記念として、当初から人権教育推進会議の委員をしていただいている河野さんに感想をいただきました。

## 天駆けるが如く！ はじけるころ20号

人権教育推進会議委員 河野秀忠

今日この頃、毎朝、新聞を開くのが怖い。何が何やら判然としない記事がやたらと多すぎると感じるからなのだが、それは、ボクだけが知覚するところだろうか。

「むしゃくしゃするから、誰でもいい、刺し殺すんだ」と、混雑する街で包丁を振り回す青年。突然に思い付いて、父親を刺し殺した少女。その他にも、こどもが家族を殺したり、親がこどもを殺したりする事柄は、枚挙にいとまなく、社会的病理ともいえる「不条理な事件」の連鎖が続く。その行く道も不可視のまま、ボクたちは、ことの説明を求めるが、終わりはどこなのか、行方不明だ。

もうニッポンという「国」は、壊れてしまったのだろうか。様々のメディアに登場しては、この「社会的病理」を解説してみせる識者たちは、国際的競争、社会的格差、青年労働力の浮遊、少子化、高齢化社会etcを引き合いに出して、現下の「社会システム」が生み出す現象だと、結論づける。しかし、本当にそれだけなのか。どんなに冷酷、悲惨な事件が起こっても、そのわずか隣りで、「オリンピックだ！ニッポン、チャチャチャ！」と、はやし立て続けている、ボクたちを含むひとびとの暮らしは、カンケーないのだろうか。時代の風のなか「カンケーは、アル」と宣言して、2000年に創られた、「箕面市人権教育基本方針」は、長年追及され続けた「箕面の教育における、様々な人権課題を統合して、その成果と経験則」の上に編まれた、素敵な文章である。そして、その文章を実践に移すための実践部隊として、箕面市人権教育推進会議(以下、推進会議)も組織された。「はじけるころ」は、小さいけれども、その実践部隊の情報媒体である。

先に述べた社会状況は、推進会議に集う、市民委員、現場の教師、行政や人権団体の代表による委員の頭を悩ませ続けている。実際、「ワッケ分からん」のである。しかし、推進会議は、あきらめない。毎度の会合では、本当に、真摯な議論をしていると自負できるからだ。(時折、コケるときもあり)。そして、その話を「人権のゆめの種」として、はじけるころに転写し、届け続けて20号である。

天駆ける想いの大人たち。こどもたちに「大人も頑張ってるやん」と想わせたい。そして未来に向かって、つながりたい！

### 人権教育推進会議情報誌『はじける ころ』

発行 箕面市人権教育推進会議  
箕面市教育委員会

人権教育課 TEL072-724-6921 FAX072-724-6010  
e-mail: eduinken@maple.city.minoh.lg.jp

平成20年(2008年)9月

人権教育推進会議委員

平沢安政、谷川守保、河野秀忠、小林和幸、安東由紀子、大橋かおり、林喜久子、昌元真己、守婦朋子、小関政子、平沢清美、福永茂、石井順子、澤田敦世、柳井律子、竹綱珠衣、平林和男

「はじけるころ」は教職員・PTA運営委員に配布しています。また、公共施設にもおいています。公開ホームページ：<http://www2.city.minoh.osaka.jp/EDUJINKEN/JINKEN/jinken.html>



今年度のはじけるころ編集会議のテーマは「そしてつながる」です。

# 子どもの放課後・休日の居場所

～学童保育・子どもほっとびあびあルーム～

学童保育が始まって三十年になりました。また、平成9年には「子どもの遊び場開放事業」が始まり、放課後や土曜日の子どもの居場所になっています。市内には国際交流協会の「子どもほっとび」やらいとびあびあ21の「びあびあルーム」など、学校以外での子どもの居場所もあります。今回は学童保育指導員、らいとびあびあ21の指導員、国際交流協会の職員の方にお集まりいただき、活動の内容や担当者としての役割、大切にされていることなどを話していただきました。

参加者…箕面市国際交流協会 中津 美和さん  
 らいとびあ21 井原 芳朗さん  
 萱野東小学童保育室 小林 廣子さん  
 豊川北小学童保育室 村田 和美さん  
 聞き手…人権教育推進会議委員 小関 政子さん  
 人権教育推進会議委員 守婦 朋子さん  
 人権教育推進会議委員 安東由紀子さん

## 活動内容

●国際交流協会では、毎週土曜日の午前中、外国から日本に来た子どもたちを対象に「子どもほっとび」を開いています。現在、小学生から中・高校生までの中国・フィリピン・メキシコ・スロヴェニア・アメリカ・インドネシア出身、またはルーツを持つ子どもたちが来ています。

ここではボランティアが、ひらがな・漢字など授業の中で使う言葉を教える日本語指導をしています。また、ボール遊びやゲームをして遊ぶ時間も設けています。遊びに夢中になり、楽しさを共有することのできる時間が、ストレスを発散できる場になっているのでしよう。そこでは、今の自分を出しているのてしようか、泣き出したり、甘えたりする子どももいます。

●らいとびあでは、子どもの居場所として、空き地や

公園のように、いつ誰が来てもいい「びあびあルーム」を月曜から土曜まで開いて小学生に場所を提供しています。

それ以外の活動として、友だちとつながって遊ぶ「遊び道場」やキャンプ等を行っています。また、中学生以上を対象に学習・スポーツ・ボランティアなど自主的な活動を支援しています。

●学童では、「昼間のお家」として、「おかえり」「ただいま」というあいさつをかわして、子どもたちを迎えています。学校から帰ってきたら連絡帳を出して、(指導者はこの時、子どもの体調や心の様子を見ています。)自由に勉強をしたり遊んだり、本を読んだりしています。

また、市内の子どもたちを取り巻く環境として、自由に遊べる場所やたまり場の空間が少なく、友だち同士や異年齢間のふれあいの機会が少ないということから、平成9年、すべての子どもたちに小学校の運動場・体育館・余裕教室(開放ルーム)が提供され、子どもたちの主体性・創造性や異年齢による集団生活での協調性を育むことができる「子どもの遊び場開放事業」が始まりました。



学童の子どもたちは、おやつを食べたら、運動場に行く子や開放ルームに行く子など、自分の行きたい場所を選んで遊んでいます。帰る前には、三年生がリーダーになり、クイズや紙芝居をしたり、一日のふりかえりの話し合いをしたりしています。

本年4月14日からは、月曜から金曜までは、午後5時以降7時までの延長保育が始まりました。延長保育が必要な保護者にとっては安心できるようなっています。

## 活動するうえで気にかけている事、大切にしている事

●学童では、何かあった時には助けてもらえるという安心感や、子どもが安心してそこにいることができる信頼関係を大切にしています。子ども同士も、指導員と子どもも、指導員同士もそうですが、みんなが信頼し合えるように努力しています。

楽しいこともしんどいことも一緒に考え、子どもの話を聴くことを大切にしています。学童は自由遊びが基本ですので、指導員は、仲良く楽しく遊べるよう、声かけをしたり遊びのきっかけづくりをしたり、それぞれの場所で子どもたちが安全に楽しく遊べるように見守っています。また、「自分で考え、自分で行動できる」そういう子どもになってほしいと願っています。

●らいとびあは、自由に出入りする場所で、次の日は来ないかもしれない中で、基本的に「聴く」ということを大切にしています。物を壊したり、人に暴力を振るったりすると当然注意をします。しかし、こんなことをするから、「次から来てはだめです」という言



●らいとびあでは、生活課題があったり、不登校傾向の子どもたちを対象に学校かららいとびあ21の事業を紹介してもらって、中間支援という形で個別の居場所をつくっています。エネルギーをためてもらって、結果的に学校に行けるようになったらいいと思っています。

●「こんな場所あったんや。早く来たかった。」と「子どもほっとび」に来ている子どもたちから聞きます。子どもたちや保護者にこんな場所もあるという情報提供をすることから、学校との連携を進めていけたらと思います。

「子どもの居場所」とは、単に身を置くスペースというのではなく、心に休養や栄養を与える機能を持つ場であるということが、取材を通してよく理解できました。お話をうかがった方々には、三者三様の環境、役割の違いがありました。取り組み方の基本は同じだと感じました。それは、子どもの安心、安全に配慮し、自分で考えて行動し、困ったときは助けを求めることが出来る「生きる力」を養うことです。

私自身、国際交流活動のボランティアをした経験があるので、「子どもほっとび」のお話が特に印象に残りました。言葉のうまく通じない日常生活から離れた「子どもほっとび」には、子どもたちが自尊心を高め、他者と信頼関係を築く練習場の機能もあります。経験豊富なスタッフの子どもへの適切な言葉かけの事例をお聞きしていると、その子たちの親の生きづらさも見えるようになってきました。

大人も子どもも普段の生活と違うほっとびする場があることで、生きづらさが減るのではないのでしょうか。「子どもの居場所」に来る子どもがセルフイメージを高め、その変化を通して保護者との輪がもっと広がればと思います。 人権教育推進会議市民委員 守婦朋子

箕面市の学童保育が今年実施30年を迎え、今年度から19時までの延長保育がスタートした。どの学童保育

にも19時までの延長保育利用児童希望があると聞き、就労している保護者にとってはこの延長保育は大変有り難い「子どもの居場所」となった。

一方、萱野地区にあるらいとびあ21は、年齢層の幅広い「子どもの居場所」である。枠組みのない自由空間として自分探しの場、ときには良きアドバイザーを求め、巣立っていく場でもある。

箕面の東部に位置している国際交流協会の渡日の「子どもの居場所」。同じ子どもであっても国籍、肌の色、言語、文化、等々が違うという大きな壁があり、その中で生活するのは、想像を絶するものがある。渡日の子どもたちの涙がこの場所です。こぼれさしたとだろう。

さまざまな違いはあっても居場所のある子どもたちには生きる力を育もうとする大人の支援があることを強く感じた。

子どもの居場所はたくさんあったほうがいい。出来るだけ自宅の近くで、いつでも見守ってもらえる居場所が必要だと思う。それは子どもだけではなく大人にも同じことが言えるような気がしたのは私だけではない筈だ。 人権教育推進協議会委員 安東由紀子

子ども達から「仲間」「時間」「空間」がなくなったと言われるようになってどのくらいたつのだろう。三団体の代表の方々の話から、居場所を提供する中で、子ども達がこの三つの「間」を取り戻す力を育むことを目的の一つとして尽力されているということ、また、単に場所だけでなく気持ちや安定させ安心できる場所になるように活動されていることがわかりました。

学童保育は障害のある子どもも外国籍の子どもも校区内に住む就労世帯などの小学生に対して開かれている居場所です。学童保育がめざすのは「自分で考え、自分で行動できる子」であり、日々の活動を通して異学年の子達の中で、心も体もまあれながら成長していくであろうたくましさを感じました。

人権教育推進協議会市民委員 小関政子

●子どもほっとびでは、自分を出してもいいという、安心できる場になるように、また、自分が自分のままでいることができる場になるようにしています。また、日本語がある程度話せる段階になれば、彼らにとって話しかけやすい環境を整えつつ、本人がしてほしいことを言ってくるまでこちらから声をかけずに待っています。

言葉の翻訳はできませんが、文化の翻訳がむずかしいです。「日本では、なぜ外と部屋とで靴を履き替えるの。」「運動会でなぜ行進をするの。」など「日本では、なぜ：。」と聞かれることがあり、ボランティアの日本社会の捉え方を問われることがあります。

また、ボランティア同士がつながり、違いを認め合える豊かな社会の実現に向けて活動している姿を見せることで、子どもたちががんばろうと元氣を出してくれると思っています。



## 保護者や学校等との連携

●学童では保護者と連携が密になるよう、連絡帳や電話、時には家庭訪問をして直接話しています。また、学校とも教頭先生を窓口、担任や支援学級の担任と連携をとっています。年度初めには、担任や支援学級の担任と懇談を持つたり、その都度、連絡を取り合ったりしています。



「人間関係づくり」(コミュニケーション)をテーマに豊川南小学校の研究授業を参観しました。

## 豊川南小学校「人間関係づくり」自分の気持ちを伝える

豊川南小学校では、「どの子ども力を発揮し楽しく学びあえること」をめざし、その基礎として、「子どもたちの温かい人間関係づくり」を全学年で年間を通して継続的に取り組まれています。

今回は、六年生の研究授業を参観しました。本授業では、コミュニケーションには三つのタイプ(受動的・攻撃的・自己主張的)があることを知り、ロールプレイなどをおして自己主張的なコミュニケーションをすることが大切であることに気づくことをねらいとして実施されました。



「人間関係づくり」プログラム、六年生は2008年度17時間、月2回程度実施。観点は、①セルフエスティームを高める、②友だちのことを知る、③コミュニケーション能力を育てる(伝え合い・上手な聞き方/非攻撃的表現・温かい表現)、④自分と友だちの関係について考える(友だち関係、いじめ)、⑤偏見を解きほぐす(男女の平等、みえない障害、固定観念)、⑥社



会問題に気づく(開発教育)、⑦その他(薬物)。割合で見ると、②43%、③21%、①17%、④9%、⑤3%、⑥5%。今回の授業の観点は②と③。

「宿題を見せてくれ」とプレッシャーをかける「強気タイプ」、断れない「弱気タイプ」の会話を先生方がロールプレイ。その後、子どもたちは、「強気タイプ」「弱気タイプ」の心の声を想像したり、「弱気タイプ」が「気持ちはずきりタイプ」になれるよう、はっきり表現する言葉を考えたりしました。グループで話し合うことで相互理解、相乗効果が見え、ロールプレイで声に出して言うこと、「振り返りシート」で自分が使いやすい応え方や自分らしい応え方を選んで書くことで応用力が育っていくと感じました。全学年が学ぶこのプログラムを通じて、違いを認め合い、互いを尊重する気持ちが育ち、言葉や応え方を学び、実生活でもうまく使えるようになれば、生きる力も高まると思います。

人権教育推進会議市民委員 守婦朋子



※セルフエスティーム=「自分がかげがえのない大事な存在だ。」と思える気持ちのこと。自尊心または自己肯定感とも言う。

## ひがし幼稚園〜平和について考える〜

ひがし幼稚園では、毎年夏休みに平和登壇日を行っています。今年は、保護者とともに子どもたちが大阪大空襲の話を読んだり、地域や保護者の方に戦争に関する絵本を読んでもらったりしました。戦争の怖さや、平和の大切さについて改めて考える機会になりました。

平和の絵本のコーナー

地域の方や保護者の方による絵本の読み聞かせ。

パネル・戦争絵本・展示のコーナー

千人針・鉄かぶとなど戦争中の道具やパネル。戦争に関する絵本の展示。

職員による大型紙芝居

空襲を受けての真っ赤な空の映像や、ごう音などの効果音もあり、子どもたちも集中して聞いていました。平和のメッセージのコーナー(メッセージカードより)「ずっとかぞくみんなくせませますように。くにごうしがなかくよくなりますように。 など

それぞれのコーナーで、親子で戦争や平和、命について語り合う姿が印象的でした。

戦争中の話

「私の戦争体験」というタイトルで、小学校二年生(8歳)で実際に大阪大空襲を体験された濱岡さんのお話を聴きました。濱岡さんは、「戦争で爆弾が落ちてくると、家がなくなったり、大切な家族が死んでしまったり、戦争の恐ろしさ、平和の大切さ、命の大切さを子どもたちや保護者にわかりやすく話してくださいました。



◆保護者の感想  
親も戦争を知らない世代なので、親子で平和について考えることができてよかったです。家でも私の祖母から聞いた話をしてみたいです。大阪大空襲の話が、幼稚園児には難しいかと思っていましたが、ふりかえりをしたとき、素直に理解している姿に感動しました。戦争が「怖」「いやだ」という気持ちで大事にしてほしいです。

ひがし幼稚園平和登壇日の取り組みに参加して

夏休みが始まってすぐの暑い日でしたが、たくさんのお親さんが参加していました。

絵本を読み聞かせてもらったり、大型紙芝居をみたり、展示物を見たり、各コーナーの取り組みがありました。

その後、「戦争をして爆弾が落ちると、家がなくなる、人が死んでしまう何もかもみんななくなってしまうんですよ。」という濱岡先生の大阪大空襲の話に、改めて戦争の虚しさや怖さを感じました。

取り組みのあと保護者の方に、いろいろな平和への思いを聞かせて頂きました。

保護者の方も戦争を知らない世代で子どもに聞かれた時にどのように伝えたらいいのか難しい、感受性が強いのでどこまで理解しているのか……。

家族と離れたくない思い、などなど……。

保護者も子どもたちもいろいろな思いを感じてくださっていたようでした。

「今は感じるころが一番。いつか、行動へとつながる大人になって欲しい。」

園長先生のメッセージに保、幼、小、中の平和への取り組み(教育)が子どもたちの未来につながってほしいと感ずると感じました。

人権教育推進会議委員 澤田敦世

ひがし幼稚園の平和登壇に参加して  
幼稚園で平和登壇をされていることは聞いていましたが、



幼い子どもたちにどのようにされているのか、具体的にみたいと思っていましたので、楽しみに参加させていただきました。

その日の講師は第二次世界大戦の時、8歳で「大阪空襲」の体験をされた濱岡文博さんでした。「戦争ってどんなにか知ってるか?」「朝起きて、周りに誰もいなかったらどうする?」や、「僕はそんな経験をしたんだよ」という、質問や経験談に一生懸命聞き入っていました。お話の内容を聞き逃すまいとするような子どもたちの真剣な横顔に、見入ってしまいました。

園児たちの知っている戦争は「爆弾が落ちるねん」「家が焼ける」「人が死ぬ」であり、朝起きて何もなかったら「木の下で暮らす」「人の家に泊めてもらう」「動物と力を合わせる」ことで、乗り切ろうという案でした。

お話が終わってから、園の先生がどう思ったのか感想を聞かれました。園児たちの感想は「人が死ぬのがこわい」「お家がなくなってしまうから、戦争が起るとこわい」とこわがり、「人が死んで悲しい」「家もつぶれるし、人も死ぬしかない」と悲しく感じ、年少さんも「僕の家が爆弾がきたらいやだ」と、自分の身近に引き寄せ戦争はいやだと感じていました。こうした感情は年齢に関係なく持っているし、幼い時にこうした感情を共有することは大事なとくみだと感じました。園長先生が「種まきの時代」だと考えていると言われ、園児たちが「種まきの時代」だと言われていると聞いていましたが、感受性という種なんですよ。子どもと保護者の方が一緒に書いた平和メッセージに「ママとパパとねーね(姉)とはなれたくない」という、種を見つけた。

人権教育推進会議委員 竹綱珠衣



エッセイの共通テーマ：「死ぬな、殺すな」、一人ひとりの生命を大切に

# 車イスと、ひらひらイス



かわのひでただ

ウチのお母ちゃんは、車イスを使ってる。小さいころからやデ。ウチが小学校に入学したときも、車イスに乗って学校に来てくれたん。うれしかった。いつもニコニコして、ウチに、お母ちゃんの小さいころのことを話してくれる。ウチは、そんなお母ちゃんが大好き。

ウチが小さいころ、お母ちゃんが車イスに乗り、お父ちゃんがおして、ウチは、お母ちゃんのヒザに乗って、買い物に行ってたことをおぼえてる。このころは、お母ちゃんが電動車イスに乗りかえたから、ウチが、お母ちゃんの車イスをおすことがあんまりのうなってしまった。チビッと、さびしいな。

うらうらと太陽の光りが落ちてくる、ほんのり春休みのある日。お母ちゃんが、

「みどり、学校は休みやろ。お母ちゃん、ちょっと市役所に用事があんな。ひさびさに車イスをおっけ、いっしょに行ってくれへんか？」

って、いうねん。そやから、

「ウン、ええや。」

って、ふたつ返事したよ。で、おひるごはんを食べてから、ふたりで市役所に行ったんよ。ウチの家から市役所までは、二〇分くらいかかんねん。家を出て、市役所に行く大通りをゆっくり、ゆっくり歩いて行くと、いろんなひとに出会う。気持ちのいい春の風のなかを、ごどもふたり自転車で走ってる、若いお母さん。電動の三輪車イスで、のんびり歩いてるおじいさん。そっそっ、このころ、おじいさんや、おばあさんが電動三輪車イスに乗っているのを、よく見るようになったなあ。

市役所についたんやけど、ウチ、いつも思うねん。市役所にあるスロープは、どうしてはじっここのほうにしかあれへんのかって。もっとまん中につけたほうがええのにね。

それで、お母ちゃんの車イスをおして、福祉のかかりのところに行ってん。お母ちゃんが、なんかの話をしているあいだ、ウチは、ヒマや。そやからカベぎわの長イスにすわって、あっちこっち見てたんや。それで気づいたんやけど、市役所のひとのすわってるイスのことを。

前のほうにいるひとのイスは、かんたんなイス。それが奥のほうにいくと、ひじつきイス、背もたれつきイス、大きな背もたれひじつきイスと、だんだん立派になっていくねん。みんないっしょに働いているのに、なんでちがうんやろなあって。

お母ちゃんの用事もすんで、サクラの花が少しのこってる帰り道で、ウチ、そのことをお母ちゃんに聞いてん。なんでやろって。お母ちゃんは、

「あれはな、奥のほうになればなるほど、エライひとになっていくんや。それでイスも立派なものになるんやろな。大きな背もたれひじつきイスは、一番エライひとがすわるんやデ。でもな、仕事では、エライひと、エラクないひととあるやろけど、どんなエライひとでも、ひとりやったら、車イスは一台しかおされへん。二台も三台もおされへんねん。そやから、ひとはみんな同んなじや。お母ちゃんなんか、小さいころから、背もたれひじつき車イスなんやから、エライひとの上なしゃやデ。」

と教えてくれて、イヒヒヒヒッと笑った。ウチは、なんかよつわからんかったけど、しられて笑った。お母ちゃんは、とまどき、とまどきまでがホントで、どいまでがウンかわらん話しをするからなあ。でも、ウチは、ちゃんとお母ちゃんの乗ってる車イスをおせるさやデ。

うしろから、あたたかい春の風がふいてきて、お母ちゃんのかみの毛を、ハラリとなでた。

家までは、もつちよつとやったから、ヨイシヨット、かけ声かけたんよ。



## みんなではなしてあげたい

- あなたは、車イスをおしたことがありますか？みどりちゃんは、小学校何年生かなあ。
- ひとりでは、車イスを一台しかおせないというのは、どういうことでしょうか。
- あなたは、「ウチのお母ちゃん」のどのようなところがスキですか。
- あなたは、学校が休みのときは、どうしてしていますか。